

授業科目名	演技論	担当教員	山内 健司 木田 真理子
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	2年第3クォーター		
講義内容	演技をめぐる言葉と向き合う。創作現場で、表現者個々のうちに、どんな言葉があるのかを知り、それらの言葉が、それぞれの歴史や文化をふまえた豊かさをもつ、多様なものであることを知る。表現者のうちにある言葉、観客・批評家・研究者によって語られる言葉、異ジャンルの舞台上で語られる言葉、異文化の舞台上で語られる言葉、過去の時代に語られた言葉、などに触れ、それらの言葉に触発され、自身の言葉を鍛え、敬意をもって他者と関わっていく第一歩とする。対話における他者への敬意を、演技論の視座から学ぶ。		
到達目標	1. 演技をめぐる言葉の、豊かさと多様性を述べることができる。 2. 演技論について、他者と対話することができる。 3. 演技をめぐる言葉を通して、他者に敬意をもつことができる。		
授業計画	1. 戯曲と演技の間にある言葉（山内①） 2. 日本の戯曲と演技論をセットで読む1：現代口語演劇の取り組み（山内②） 3. 翻訳された言葉と演技：チェーホフ（山内③） 4. 日本の戯曲と演技論をセットで読む2：日本戦後演劇史より、杉村春子（山内④） 5. 日本の戯曲と演技論をセットで読む3：日本戦後演劇史より、安部公房スタジオ、篠崎メソッド（山内⑤） 6. 日本の戯曲と演技論をセットで読む4：詩の言葉と身体（山内⑥） 7. 海外の演技論：メソッド演技（山内⑦） 8. 海外の演技論：フランス近代演劇（山内⑧） 9. 演技についての言葉と演技者（山内⑨） 10. ダンスと演技1：抽象的なダンス作品（木田①） 11. ダンスと演技2：ストーリー性のあるダンス作品（木田②） 12. ダンスと演技3：舞台にその人自身が現れているダンス作品（木田③）		
事前・事後学習	・講義中で部分的に取り扱う戯曲、演劇論、演技論のテキストについては、その全体像にふれるよう努めること		
テキスト	各講義中に配布する。		
参考文献	・各回の実習において参考資料を配付する。 ・参考文献等を適宜紹介する。		
成績評価の基準	・授業時間内での発言・姿勢（50%） ・レポート（50%）		
履修上の注意 履修要件			
実践的教育	芸術文化分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。		
備考欄			